

新潟 ⇒ 秋田

4K60P 撮影作品※



※カバー画像はブルーレイ盤です



ANRS-72435B / 本編約 226 分 **5,500 円** (税込)

ANRS-72434 / 本編約 226 分 **4,950 円** (税込)

■撮影日 / 2025 年 9 月 12 日 (金) 晴

■車両 / E653 系 7 両

■区間 / 新潟 (8:23 発) ⇒ 秋田 (11:46 着)

■ 本編の概要 ■

新潟を発車し、白新線を進んで行き、大形の先で阿賀野川を渡る。新発田からは羽越本線进行、村上を出ると交直セクションがあり、この先は交流電化区間となる。桑川から越後寒川にかけては、名勝「笹川流れ」が続き、トンネルとトンネルとの間には、美しい海岸線や奇岩を望める。県境を越え、海岸線から内陸部へ入って行くと、黄金色に染まる庄内平野の田園地帯が広がり、正に「いなほ」の列車名由来の景色である。陸羽西線と接続する余目を出て、最上川を渡る頃には鳥海山が望めるようになり、酒田を経て、南鳥海あたりまで車窓の友となる。吹浦を過ぎると、再び日本海沿いに北上し、小砂川からは秋田県になる。途中、EF510 が牽引する貨物列車、同僚の「いなほ」号、701 系普通電車とすれ違いも見られる。雄物川を渡ると秋田市街地が広がり始め、右から奥羽本線（秋田新幹線）が並走してくると、秋田に到着となり、約 3 時間半の旅も終わる。

■ JR 東日本商品化許諾済

◆ 展望本編の主なキャプチャ画像 ◆

※本編は 4K カメラと高画質 60 フレームプログレッシブで撮影された映像をマスターデータとして使用、ブルーレイ方式（または DVD 方式）に変換して記録しています。



新潟で発車待ち。このホームは新幹線と同一平面上で乗換ができ、利便性に優れている。



新潟貨物ターミナルでは、DD200 が入れ換え作業に動んでいる。（新潟～東新潟）



坂町では米坂線が右に分れて行くが、長期運休中で、線路が草生して廃線のようなだ。



交直セクションを通過中。この先は交流電化区間となる。（村上～間島）



名勝「笹川流れ」に沿って美しい海岸線进行。奇岩も印象的だ。（今川～越後寒川）



あつみ温泉ですれ違った「いなほ 6 号」は、ハマナス色の編成で運転されていた。



庄内平野が黄金色に染まる秋こそ、「いなほ」の列車名由来の風景だ。（羽前水沢～羽前大山）



最上川を渡る。遠方には鳥海山も見えてくる。（北余目～砂越）



酒田に到着。庄内地方では比較的大きな駅だが、閑散としているホームが侘しい。



鳥海山の勇姿が、眼前に迫ってくる。快晴で山容も映える。（南鳥海～遊佐）



吹浦を出ると、再び日本海に沿って走る。海との間には松林（防風林）が続く。（吹浦～女鹿）



県境の秘境駅「女鹿」を通過。ホームは片側のみで、1 日 6 本しか停車しない。



金浦で青い EF510 が牽引する貨物と交換。かつてのブルトレ牽引機も新天地で活躍中だ。



右から由利高原鉄道が現れ、並走しながら進み羽後本庄に到着する。（西目～羽後本庄）



雄物川を渡ると、秋田市街地が広がってくる。（荒屋～羽後牛島）



秋田に到着。今や秋田にやってくる「いなほ」は 2 往復になってしまった。

■ 撮影時の気象条件や機材との関係により、明暗のバランスの乱れがある区間があります。また、列車の進行方向によって、逆光による反射光で正面ガラスへの写り込み、汚れ等で展望が見づらいと感じる区間もありますが、あらかじめご了承ください。

■ キャプチャー画像は、お手持ちのパソコンやテレビ等の環境により、実際の映像より色味が違って見える場合がございます。